平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	3	都道府県・指定都市名	岩手県
ふりがな 学校名（生徒数）	いわてけんりつもりおかみなみこうとうがっこう 岩手県立盛岡南高等学校（生徒数 706 名）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：〒020-0833　岩手県盛岡市西見前 20－113－１
電話番号：019-638-9373
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www2.iwate-ed.jp/mos-h/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：保健体育（体育「ダンス」・保健「精神の健康」）
○研究のキーワード：**グループ活動**　生徒の実態把握　実態に応じた指導の工夫
楽しい授業　研究体制の確立
○研究成果のポイント：　**仲間との関わり合い**から学びを深める　**活発な言語活動**
卒業後に運動やスポーツを継続できる資質や能力の育成

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

新学習指導要領の趣旨を具現化するため、指導方法の工夫改善に関する実践研究

（２）研究主題設定の理由

本校では保健体育の授業に対して意欲的に取り組む生徒は多いが、計画的な実践を通して生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力・知識を総合的に考え、判断し、それらを表現する力については十分に育成されているとは言えない状況である。

そこで、卒業後に、少なくとも一つの運動やスポーツを継続できる資質や能力及び健康・安全に関して得た知識を活用できる能力を育成することをねらいとする。

（３）研究体制

①校内に教育課程研究指定校事業校内検討委員会を設置
②検討委員会構成メンバーを本校保健体育科教員、副校長、県教育委員会担当指導主事とし、研究を推進
③検討委員会の中に科目体育班と科目保健班を設け、保健体育科教員が全員で分担
④アドバイザーとして、国立大学法人岩手大学教育学部准教授清水将氏に依頼

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	４月　保健体育科研究体制の整備・研究の方向性についての検討
	５月　生徒の実態調査アンケート及び新体力テストの実施
	６～10 月　研究及び授業実践（随時校内研究会）、各種公開授業・研究会等への参加
	11 月　平成 25 年度教育課程研究指定校事業研究授業実施　調査官来校
	12～１月　生徒の実態調査アンケート等による成果検証、最終報告会に向けた準備
	２月　指定校研究協議会最終報告会、岩手県教育研究発表会等での発表
	３月　最終報告書提出

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

〈科目体育「ダンス・現代的リズムのダンス」〉

○主題

「仲間との関わりを育成する学習形態の工夫により、運動することの楽しさを感じながら、自分なりにリズムに乗ってダンスができるようになったり、お互いの違いを認め合えたりする能力を育成する」

○研究内容と工夫

・男女共習での取組（学習形態の工夫）
・基礎の動きと生徒の創作、ダンスに自分らしい表現を求める
（技能の指導の工夫、指導計画の工夫）
・グループ内での教え合い活動、グループ間での意見交換の工夫
（態度の指導内容：違いやよさを認め合うこと、を重視）

〈科目保健「精神の健康」〉

○主題

「**仲間との関わりを育成する学習形態の工夫**により、楽しく感じながら言語活動を活発に行い、得た知識を活用できる能力を育成する」

○研究内容と工夫

・得た知識を活用して友達に手紙を書く　・ポスターセッションによる発表と意見交換
・調べ学習　・ブレインストーミング　・男女混合グループ

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

［生徒の変容］

〈科目体育「ダンス・現代的リズムのダンス」〉

・男女共習での学習形態の工夫により、ダンスが楽しいと感じる生徒が増えた。
・自由に表現する活動を取り入れたことが、ダンスを生涯にわたって楽しむための自己の関わり方を見付けることができた。
・違いやよさを認め合う活動により、生徒が主体的に授業に取り組むようになり、消極的だった生徒が進んでリーダー役を引き受けたり、業間等でダンスに取り組んだりする姿が見られるようになった。

〈科目保健「精神の健康」〉

・「保健の授業が楽しい」「保健の授業において考えたり工夫したりすることができた」という生徒の割合が増加した。
・グループ活動を通じて、共感したり、視野を広げたりすることができた。
・言語活動を活発に行うことにより、コミュニケーション能力や論理的思考能力を育成することができた。

［指導者の変容］

・新学習指導要領の趣旨や意義についての理解が深まるとともに、保健体育科教員が意識統一を図って授業づくりをすることの価値を実感することができた。

（２）研究成果の意義

研究のねらいとして設定した「卒業後に、少なくとも一つの運動やスポーツを継続できる資質や能力及び健康・安全に関して得た知識を活用できる能力を育成すること」をほぼ達成することができた。研究に際しては、どの学校でも活用できる内容になることを心がけたので、全国の学校で実践していただくことを望んでいる。感想等を寄せていただくことにより、今後の糧としたい。また、今回の指定校事業に係って、本県高等学校教育研究会保健体育部会において公開授業と研究協議を行った。新学習指導要領の趣旨を具現化した授業の成果を県内の高等学校保健体育科教員とともに共有することができた。

（３）課題

科目体育においては、態度の指導内容を深めるとともに、研究内容の「指導と評価の一体化」に取り組みたい。科目保健においては学んだ知識の活用についての具体例を挙げられるようになったものの、実生活に活用している生徒の割合は低下した。来年度以降も継続して指導していきたい。